

電気の ふるさと

Vol.48
2017.6
Summer

わがまち自慢 ～市長室から～

福井県敦賀市 瀧上 隆信 市長

特集 「協働」と「連携」によるまちづくり②①

長野県飯田市が推進する
地域活性化の取り組み

自立的なまちづくりの参加意識を醸成する公民館活動

KEY PERSON

松下 啓一 さん（相模女子大学教授）

協働の考え方とつくり方

【写真】敦賀市街地



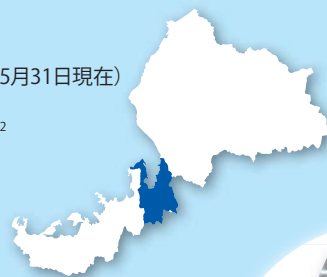


わがまち 自慢

～市長室から～

敦賀市データ

【人口】
66,652人
(平成29年5月31日現在)
【面積】
251.39km²



「リンゴ型タオル」



人道の港 敦賀ムゼウム



人道の港 敦賀ムゼウム 内部

リンゴの逸話が示す「やさしさ」

昨年開催された伊勢志摩サミットでの土産品を詰めたサミットバックに、地方自治体として、敦賀の「リンゴ型タオル」が封入品に選ばれました。

実はこのリンゴは、敦賀の人々の「やさしさ」を象徴したもので、敦賀港が「人道の港」と呼ばれるようになった逸話にちなんでいます。

第二次世界大戦当時、ヨーロッパにおけるナチス・ドイツの迫害に苦しむ多くのユダヤ人難民に対し、リトアニア領事代理だった杉原千畝が第三国への「通過ビザ」を発給しました。いわゆる「命の

ビザ」です。

このビザを手にした約6,000人のユダヤ人難民は、遠路、シベリア鉄道でウラジオストクへ向かい、日本海を渡って敦賀港にたどり着きました。

その時、上陸したユダヤ人難民に対し、銭湯の無料開放や宿の提供など、敦賀市民は、様々なおもてなしをしました。ある時、港から駅へと歩くユダヤ人難民たちに、一人の少年がリンゴを差し出します。すると、ユダヤ人難民は、そのリンゴを皆で一口ずつかじって回しました。長い旅路を終えた安堵の思いと、敦賀の人々の優しさを、一つのリンゴで共有したのです。これらの逸話に象徴されるように、敦賀の人々は「やさしさ」「寛

容さ」を持っています。私は、この「リンゴ型タオル」で、敦賀の人々、ひいては日本人の「やさしさ」「寛容さ」を世界に発信したいと要請し、サミットバックの封入品に加えていただきました。この他にも、幕末に、流浪の果てに敦賀で捕まり処刑された武田耕雲斎率いる水戸の天狗党の人々を、敦賀市民は丁重に埋葬し、神と祀っています。今でも水戸の方々に感謝されるとともに、姉妹都市として深い交流が続いています。

このような逸話は、敦賀の人々にとっては、何の気負いもない当然の行為でした。こうした「やさしさ」と「寛容さ」こそ、敦賀の人の強み、敦賀の発展の源でしょう。市の産業団地に来ていただいた企業さんからは、「敦賀で雇った人は誠実で、勤勉ですね」という声を多くいただいています。

そんな人々の人柄が敦賀の宝です。最も自慢できる「宝」だと思っています。

交流の歴史が育んだ市民性

実は、私自身は九州の出身ですが、この地に来て以来、敦賀の人々の「やさしさ」に触れてきました。そして支えられてきました。敦賀の人々の良さを、内外に発信していくことも、私の大きな役目だと思っています。

敦賀の人々の「やさしさ」は、古くからの歴史・風土の中で醸成されてきました。敦賀は古くから大陸と日本を結ぶ交通の要衝として栄えてきたまちです。古くは古事記にも敦賀に関する記述が残っており、以来、それぞれの時代で敦賀は歴史の様々な舞台に登場しています。江戸時代から明治中期にかけては、北前船の寄港地となり、北海道をはじめとする全国各地の食料や物資が数多く集められ、京都や他地方とを結ぶ物流の拠点として賑わいました。また、明治時代には敦賀ウラジオストク間の直通定期船の就航と、新橋ー金ヶ崎間の欧亜国際連絡列車の運行によって、敦賀は国際都市として大きく



気比の松原



敦賀赤レンガ倉庫



旧敦賀駅舎 (敦賀鉄道資料館)

発展してきました。交通の要衝として古来より多くの人、モノ、文化が往来し、それを受け入れてきた地域だったわけです。そうした交流の歴史の中で、敦賀の人々の「やさしさ」「寛容性」が育まれてきたのだと思います。

また、敦賀は歴史の深いまちです。古からの歴史的な名所・旧跡が数多くあります。気比神宮はよく知られていますが、まだまだ、地域資源として掘り起こされていないものも多くあります。そのような意味でも、敦賀は多くの可能性を持つまちです。

先進的なまちづくりを目指して

長い交流の歴史の中で、もう一つ培われてきたものに、敦賀の人々が持つ先進性があります。

ご存知のように、原子力発電の草創期に、日本のエネルギー供給を支えることに誇りを持って、原子力発電所の立地地域になりました。昭和45年の「大阪万国博覧会」への初送電は敦賀からでした。

敦賀市は、今年で市制80周年を迎えます。今後の市制90年、100年に向けてさらなる発展を目指して、先進的なまちづくりを進めています。

現在、長期的な視点で取り組んでいるのが「ハーモニアスポリス

構想」です。これは、周辺の市町と協力し、市域・圏域を越えて広域的な経済圏・生活圏を形成しようとするものです。敦賀は、三方を山に囲まれ、平野も狭かったため、臨港工業地帯を形成できずに来ました。一方、周辺の市町には港がありません。そのため、この構想では周辺地域との間の道路網を整備します。そして、工業地帯と敦賀港の間のアクセス向上や、港の利用拡大を図ることで、地域間の協調を重視した広域的な発展を図ることを目指しています。

また、この「ハーモニアスポリス構想」の一つの取り組みとして、水素社会の実現に取り組んでいきたいと考えております。エネルギー供給都市としての役割を担ってきた敦賀には、送電網などのインフラが整っています。

そのため、原子力発電に加え水素発電を実施することで、CO₂フリーの国産エネルギーの供給拠点として、今後のさらなる日本の発展に貢献できると考えています。

また、敦賀に水素エネルギーの拠点を設けることで今後もエネルギーのパイオニア都市として貢献していきたいと考えています。

短期的な課題には、5年後の北陸新幹線敦賀駅開業に向けた受け皿づくりがあります。

敦賀市は国土交通省の「景観まちづくり刷新支援事業」の全国モ

デル10地区の一つに選ばれました。この事業を活用し、観光客が降り立つ敦賀駅・気比神宮・敦賀港に至る市街地の整備を進め、観光客の回遊性が高まるよう整備を進めます。また、商店街などの事業者にご活躍いただくことで、観光客による消費拡大を促すとともに、それを事業者の販路拡大にも繋げていきます。

平成29年度は、「福井しあわせ

元気国体」のプレ大会の開催、外国クルーズ船『ダイヤモンド・プリンセス』の敦賀港寄港などのイベントが控えています。多くの人々が敦賀を訪れることとなりますから、敦賀が持つ地域資源をもとに、優しい「おもてなし」が活かされる良い機会となると思います。ぜひ多くの方に敦賀に来ていただき、人々の人柄に触れていただきたいと思いますね。(談)

気比神社例大祭 (福井県観光連盟提供)



敦賀港 (福井県観光連盟提供)



清明神社



博物館通り



【写真】

- 1 千代地区の「よこね田んぼ」の保全活動
- 2 千代保育園の園児数は毎年40人ほど
- 3 秘境駅として知られるJR飯田線千代駅
- 4 信濃二の宮としての「御柱祭」
- 5 万古溪谷の沢渉リツアー
- 6 園庭で遊ぶ園児の元気な声が響く

特集

「協働」と「連携」によるまちづくり②
長野県飯田市が推進する地域活性化の取り組み

自立的なまちづくりの 参加意識を醸成する公民館活動

長野県飯田市の千代地区では、全戸出資で社会福祉法人を設立して、保育園と高齢者福祉施設を運営している。このような地域住民の自立的なまちづくりの参加意識が醸成されてきた背景を探る。

地域立の社会福祉法人が 経営する保育園と福祉施設

市街地から南東に車で30分、長野県飯田市の千代地区は、緑豊かな山間に広がる典型的な中山間地である。昭和39年に旧千代村が飯田市と合併し、約600世帯、人口約1,700人が住む地域だ。高齢化率は41%を超えている。その千代地区の中心にある千代自治振興センターに隣接して、千代保育園がある。ここは地区の全戸が出資して設立した、「社会福祉法人千代しゃくなげの会」が経営する保育園だ。園庭を走り回る園児たちの元気な声が、周囲の山あいには響いている。

平成15年当時、もともとこの地区には市立千代保育園と千栄保育園の2つがあった。ところが、少



2



3



4



5



6

飯田市情報

【人口】
102,996人(平成29年5月末現在)
【面積】
658.66km²
【発電所データ】
中部電力(株)三穂・松川第三～第四・飯島・泰阜・米川水力発電所





千代保育園



千代保育園千栄分園



保育の様子



園児の農作業体験



高齢者福祉施設「しゃくなげの郷」(上:室内、下:外観)

子化によって、市立千栄保育園が、翌年度から2年連続で園児数が10人未満になってしまう。そこで、飯田市は千栄保育園を廃園し千代保育園に統合する、もしくは存続するなら千代保育園を民営化し、その分園とする、という選択を地区に提案した。

それを受け、千代地区では平成16年1月から、行政（飯田市）と自治会（現在はまちづくり委員会と改称）、保護者会、地域住民を交えた勉強会、検討会が開催されることになる。約11ヶ月間、検討

を重ねた結果、定例自治会において、全地区民の合意が得られたとして、社会福祉法人を設立して「保育園民営化」の方針を決定した。同時に、設立に必要な基本財産の1,000万円を集めるため、各戸1万円の寄附と篤志寄附を募った。そして、平成17年10月、県知事の認可が下りて、「社会福祉法人千代しゃくなげの会」の法人登記を行った。翌月、千代保育園が開園し、平成18年4月に千代保育園千栄分園が開園に至る。

夕方4時までであった保育時間

は朝7時半から夜7時までとし、未満児保育、保育時間の延長、学童保育、つどいの広場開設など民営化ならではのサービスも拡大することとした。

その後、平成23年に高齢者福祉施設「しゃくなげの郷」も開設する。平成17年、「飯田市一般廃棄物処分場に係わる地域振興に関する協定」の締結により、地区内に高齢者福祉施設の整備が方向付けされたため、約3年間、地区内で検討を重ねた。平成20年「千代しゃくなげの会」による運営が決定され、平成23年に開設した。

「地域の皆さんの合意を、なんとか取り付けましたが、将来、利用者がいなくなつて赤字になったらどうするかという不安はありません。万が一、おかしな方向になつたときは、まちづくり委員会とともに責任を持っていきましょう、ということをやってきました」と、現在、法人の理事長を務めている小澤正昭さんは語る。

幸い開園以来、保育園の経営は安定している。高齢者福祉施設は開設当初、経営は苦しかったが、近年は黒字となっている。その要因のひとつは、保育園とデイサービス施設ともに、固定資産は飯田市が所有し、デイサービス施設は指定管理者の指定を受けているため、経営負担が少ないこと。もうひとつは、「十分な俸給ではないの

に、本当によく頑張っていた」といっている職員の皆さんのおかげです」と小澤さんは言う。現在の職員数は、保育園で正規・パート合わせて16名。長時間保育、学童保育などもあるのでスタッフは多い。デイサービスの職員は6名。設立当初からの職員の離職率が極めて低いことも、大きな特徴となっている。保育園児の数は今年度43名と、開園当時とほとんど変わっていないが、当初いなかった未満児の数はここ数年20名ほどになっている。未満児の増加は、地区内に施設ができたので、若い世代が安心して子供を産み、預け育てられる環境になつてきたことの証左でもある。現在では、千代地区外から子供を預けに来る人もいる。

千代しゃくなげの会 理事長
小澤正昭さん

ちなみに、「千代しゃくなげの会」という名は、地区内にしゃくなげの群生地があることから付けられた。天竜川の支流の米川の清流や万古溪谷など、豊かな自然に恵まれている。良く知られているのが、諏訪大社の二の宮としての「御柱祭」。諏訪地方のものに比べて規模は小さいが、古くから伝わる貴重な歴史文化資源となっている。

千代保育園・千栄分園の園長
澤田裕子さん

園長の澤田裕子さんは次のように語る。「非常にやりがいのある職場です。地域の皆さんが見守ってくれるのがわかります。この地区の特性を十分に活かした保育もできるし、田んぼや畑での実体験も地域の人が支援してくれます。まさに『地域立保育園』。職員もやりがいを非常に感じております」。

住民自治への参加意識が高い地域

「この地区は、とても自立的な地域です」と言うのは、千代自治振興センター所長の福岡茂巳さんだ。公民館の学習活動で水不足について勉強したときに、数人のメン

バーが組合を作り、住民がお金を出し合つて水道を作ったことがあったという。



日本棚田百選に選ばれている千代地区の『よこね田んぼ』



飯田市 千代自治振興センター 所長 福岡茂巳さん

る地域なのである。
事実、現在、飯田市が推進しているグリーンツーリズムの取り組みでも先進的な地区として知られている。体験教育旅行やワーキングホリデーなどを受け入れており、簡易宿所の資格を取得した約40戸に、年間平均20校、約1,000人の生徒が農家民泊を体験している。また、地区内の「よこね田んぼ」では、『よこね田んぼ保全委員会』を結成して管理。田植え、稲刈り



体験教育旅行の農家民泊

体験や案山子づくりイベントなどを行っている。ここは荒廃していた棚田に危機感を持った住民が立ち上がり、平成9年に委員会を立ち上げ、地区外の人々も呼び込みながら整備したところだ。
今では、美しい棚田の風景となつて蘇り、平成11年に日本棚田百選に選ばれている。

その他に、万古溪谷の沢降りツアーを復活させるグループや、米川の環境を整えるグループ、さらには、様々なサークル活動を行う女性グループも活躍している。

前述の千代保育園長の澤田さんは、市内の他地区からこの千代地区に嫁にきたが、住民のまとまりは「町場」にはないものだという。

市内の他地区でも様々な取り組みが推進されているが、その中で千代地区は住民自治に対する参加意識がとて高いことや、住民のまとまりの良さで際立っている地域なのだそう。

公民館活動と一体化させた「まちづくり委員会」

かつて「千代しゃくなげの会」の立ち上げにも携わった飯田市企画課長の串原一保さんは、こうした意識の高さの要因のひとつに、昭和20年代から続いていた「公民館活動」があるのではという。

飯田市は昔から天竜川の水運と「塩の道」、秋葉街道などを通じての物流が盛んで、大正から昭和にかけては物流の要衝であつた。三河と遠州を結ぶ地域であり、東西文化が融合する地域でもあつた。

「そのためか、人の交流からいろいろなことを学ぶ風土が醸成されていきました。しかし、学ぶ場所が少なかったため、公民館みたいなところが学びの場になっていったのではないのでしょうか」と、串原さんは語る。

飯田市は、公民館を「市民参加のDNAを継承する学びの場」と位置付けている。

合併を繰り返してきた飯田市には、現在20の地域自治区があり、そこに市の自治振興センター・公民館を設置している。以前は「支所」としていたが、地域づくりの主体である「まちづくり委員会」の事務局機能の役割を担うため、その名を変えた。この自治振興センターに併設して地区公民館を設

置しており、その下にある公民館分館は市内で103に上る。

まちづくり委員会は、従来の自治会を発展させて名称を変えた住民組織であり、地域振興、環境保全、生活安全、健康福祉といった活動の他に、公民館活動を組み入れた形になっている。そして、地区公民館に市職員の公民館主事を常駐させている。住民とともに、まちづくり活動を行うと同時に、学級・講座の開催や地区の運動会、文化祭、定期的に発行する館報の制作、青少年の育成イベントなどを手掛けている。

このように飯田市では、市役所における様々な取り組みが公民館的手法により行われている。20ある地区公民館に職員を置くことは、見かけ上、経費が掛かるが、より地域と行政が近い関係になり、公民館活動に投資していることは結果として、支出を少なくする方向に向かうことになるという。



飯田市 企画課長 串原一保さん



飯田市 千代公民館 主事 新井康平さん

長期的には住民の地域に対する意識を高めることができ、経費の面でも良いという考えだ。同時に公民館主事を務める若手職員の鍛えの場でもあるという。つまり「ワイズ・スペンディング」なのだ。
千代公民館主事の「新井康平さん」は、着任して4年目、千代での仕事を振り返る。「千代地区の人々が、一住民のように受け入れてくれて、同じ方向を向いて歩いていく」という気持ちにさせてくれました」

前述の千代自治振興センター所長の福岡さんは、「公民館主事に



年に6回発行している千代公民館の「館報」

は、『住民に巻き込まれる力』が必要だ』という。

一般的に、自治体職員の中には「住民を巻き込んで取り組みを推進しよう」という人が多いが、飯田市では逆だというのだ。公民館主事の仕事の基本は、地域の課題を地域住民とともに学習・研究すること。自治参加意識の強い地域で、公民館主事を経験することで、自治体職員としての力が育つというのだ。公民館は地域づくりに関心を持つ人の窓口となっており、交流機会や「気づき」の力を付けてもらっている。「公民館主事を経験することで、住民とともにモノやコトを発想して、どう実践に結び付けていくか、ということを経験感覚で体得するのだと思います」と、串原さんは語った。

飯田市の職員のうち、約20%にあたる職員が、こうした公民館主事を経験しているという。



りんご並木の整備をする中学生

一般的に公民館は、「交流と学習の場」である。飯田市では、それをさらに発展させるという意味で、「新しい担い手を生み出し結び付け循環させる場、多様な担い手の協働の場、多様な担い手が循環する場、担い手が役割を担い合う場」と位置付けており、たいへん興味深い。

今、地域におけるハード拠点と地域コミュニティにおける拠点（ソフト）を統合した「小さな拠点Ⅱ地域運営組織（RMO）」という概念が注目されている。

内閣府地方創生推進事務局では、「人口減少や高齢化が著しい中山間地域等においては、一体的な日常生活圏を構成している『集落生活圏』を維持することが重要であり、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができるような取り組みを進め、地域に合った生活サービス機能や交通ネットワークの確保等により、小さな拠点の形成を推進する」としている。その際の課題として、民意を体現する組織の位置付けをどう図るか、組織と行政の関係をどう構築するか、組織の持続性をどう追求するか、といったものがあげられる。

飯田市の推進する公民館活動と一体化させたまちづくりは、こうした課題を克服するヒントになっているように見えるのである。

〵結い〵をベースにして 多様な主体が担うまちづくり

飯田市は、長野県の三大景勝地のひとつである天龍峡や、「日本のチロル」と呼ばれる下栗の里など、観光資源に恵まれている。産業面でも精密工業の企業が多く、最近では航空機産業の集積もある。今後10年の間に全線開通予定の「三遠南信自動車道」が整備されると、飯田と浜松間が約120分で結ばれる。そうすると、

中央自動車道で結ばれている名古屋と浜松・豊橋に飯田を加えた、大きなポテンシャルを秘めた地域になることが予想される。また、平成39年に開業予定のリニア中央新幹線の駅も、飯田市内に設置される予定だ。そうした産業発展の基盤を支えていくのは、地域における持続可能なコミュニティであり、自立的な人づくりである。

地域自治の取り組みなどは、「ムトス」という言葉に表現されている。この言葉は広辞苑の最末尾にある、「んとす」を引用したもので、「くせんとす」つまり「くしようとする」を意味し、昭和57年に「理想とする都市像の実現に向けた行動理念」として使用している。飯田の地名は、「結いの田」が語源になっているという。多様な担い手が「結いの力」を発揮する飯田市の戦略的な地域づくりに、今、注目が集まっている。



日本のチロルと呼ばれる「下栗の里」(長野県観光機構提供)



飯田市の伝統産業である「水引」(長野県観光機構提供)



長野県三大名勝地のひとつ「天龍峡」



「いいだ人形劇フェスタ」で展示されている人形(長野県観光機構提供)

振興トピックス

このコーナーでは、主に電源地域の地域活性化に向けたソフト事業の話題を取り上げています。今回は秋田県五城目町、新潟県刈羽村、福井県敦賀市、佐賀県玄海町の取り組みを紹介します。



起業家の集まる『BABAME BASE』から町の活性化を目指す

秋田県五城目町
地図A

五城目町は秋田市の中心から車で40分ほど北上したところにあり、高齢化率全国1位の秋田県においても、その比率は県内3位で、人口約9,700人の町です。

この町で今、年間約5,000人の来館を数え、注目を集めているのが「五城目町地域活性化支援センター」、通称『BABAME BASE』です。少子高齢化により13

8年の歴史に幕を閉じた旧馬場目小学校の校舎を活用し、レンタルオフィスとして平成25年10月にオープンしました。

緑豊かな田園の木の温もりを残したレンタル・オフィス



廃校になった旧馬場目小学校を活用



中にある校舎は、小学校当時の面影を残しつつオフィス用に一部が改装されており、広々とした天井に木の温もりが残る、自然な採光が豊かな施設となっています。かつての校庭、体育館は現在も変わらぬ姿のまま残され、企業の利用に留まらず町民も行事やスポーツなどが行える場所として役立てられています。

レンタル料は月2万円、原則5年の期限で19室を貸与。月7,000円でシェアオフィスを利用することも可能です。

かつて町は、大規模な工場などの企業誘致に取り組んだこともありましたが、「身の丈にあったところから」と目標転換。地元企業や姉妹都市である東京都千代田区へのアプローチを重ね、オープン時点で3社の入居に至りました。

現在の入居企業は13社。業態は教育、コンサルティング、ネット配信サービス、ドローンスク

ール、広告代理店など多岐にわたっています。

今では、町の企業との新しい事業が生まれることもあり、町との繋がりが醸成されています。

この「繋がり」を作ることにより一役買っているのが地域おこし協力隊で、彼ら全員が県外からの移住者です。町の行事の企画、広報にも力を入れ、町の一員として尽力しています。協力隊が事務室に机を構えたことで、「入居者を含めた町の人々の意見交換の場、アイデア創造の場ができた」といいます。

彼らは協力隊を卒業し、今度は自身が起業家として町に残ることを決断しました。

複合型飲食施設『至福の時間』が『びあパークとうりんぼ』内にオープン

新潟県刈羽村
地図B

このたび、刈羽村の大型複合施設『びあパークとうりんぼ』敷地建物に、新たな複合型飲食施設『至福の時間』がオープンしました。

『びあパークとうりんぼ』は、刈羽村砂丘地振興策の起爆剤として、平成24年に当時の東京電力(株)からの寄付金を元に、刈羽村がスポーツ施設や宿泊施設、温浴施設や飲食店などを整備したもので、地域の賑わい創

こうした地元での起業、いわゆる「土着ベンチャー」や、移住に興味のある人々を町に呼び込み支援する団体「ドチャベンジャーズ」がこのたび発足。入居企業を中心となつて地元金融機関、町内企業、商工会、新旧協力隊などを巻き込み、団体として収益を上げ自立すること、メンバー自身の仕事にも繋げていくことを目標に新たな挑戦が始まりました。

「飲食業が年に1、2社起業する程度」であつた五城目町は、ここ『BABAME BASE』を拠点に、「起業家の集まるまち」として変貌を遂げようとしています。〔文責・山登〕

出に大きく貢献してきました。

しかしながら、昨年9月にスイーツをメインとした飲食店が収益悪化のため閉店し、その後早期の再開を目指し、後継業者の選定や建物の改修などを鋭意進めた結果、このたびの新店舗オープンとなりました。

ミルクの風味が生きた本格ジェラート





地元食材にこだわったピザ

ました。

『至福の時間』は、地元の養鶏会社や飲食店など3社が出資し

た新会社が運営しており、新鮮な卵をふんだんに使ったロールケーキ専門店、希少な乳牛である「ガンジー牛」の牛乳を使用したジェラート店、地元食材を使ったイタリアンレストランの3店で構成されています。1業態だけの店舗に比べ、各店舗が特徴のある商品を提供し補完し合うことで、これまで以上に安定した経営が期待できます。

また、愛犬と一緒に食事ができるスペースも併設されていて、

ペットを連れた方も一緒に楽しめる施設となっていることも大きな魅力のひとつです。

養鶏会社の経営にも携わっている『至福の時間』の立川社長は、「鶏の健康に配慮した卵や希少な牛乳を使うなど、地元の食材や味にこだわったメニューを提供することにより、地元のみならず県内外から多くのお客様が集まる店にしたい」と抱負を述べており、今後の賑わいが期待されています。〔文責・森(和)〕

ふるさと納税の返礼品を拡大・充実

福井県敦賀市
地図⑨

敦賀市では今年4月から、敦賀市のふるさと納税返礼品の商品ラインナップが拡大されました。

返礼品への参加事業者も増加して、敦賀の魅力ある特産品が、返礼の品々としてより一層

充実したものになっています。

従来から、敦賀市では地域資源に関連した新商品や、そのパッケージ開発を支援する「新商品チャレンジ事業」を推進してきました。その結果、商品開発をする事業者が増加して、開発された商品は新たな『敦賀ブランド』

となりまし。この事業で新たに開発された商品は、敦賀の伝統野菜「杉箸アカ

カンバ（赤かぶら）」を使用したお菓子『赤かんぱココロン』や、敦賀特産の東浦みかんの果汁を使った『東浦みかんのビール』などです。さらには、第二次世界大戦時に、杉原千畝が発給したビザにより敦賀港に上陸し、命を救われたユダヤ人難民との絆やエピソードをモチーフにしたお菓子『絆・幸せのルガラ』などを含む6品が返礼品のラインナップに加えられました。

敦賀市への「ふるさと納税」は既に昨年度の実績を上回る件数の申込みがあり、非常に好評となっており、市は地元事業者等と協力した「敦賀の魅力・敦賀ブランド」が全国に発信されることを期待しています。〔文責・草野〕



天井のスクリーンで学習できる『アースラボ』

また、全天周型ドームで、天井の全面に映像を投影すること



デジタル地球儀『タッチアース』

待っています。〔文責・佐久本〕

次世代エネルギーパーク『あすぴあ』がリニューアルオープン

平成25年7月にオープンした玄海町次世代エネルギーパーク『あすぴあ』が本年4月にリニューアルオープンしました。

『あすぴあ』は、明日を担う子どもたちが次世代エネルギーを見て、触れて、直接体験できる学習の場であると同時に、地域活性化をもたらす場としての機能を持っています。オープン以来年々来場者が増加し、本年5月には、累計来場者数40万人を達成しました。

今回のリニューアルでは、来場者が触って学べる展示物として、地球環境に関する様々な情報が映し出されるデジタル地球儀『タッチアース』を導入しました。この設備は可動式であるため、施設内だけでなく周辺地域でも学習することが出来ます。

ができる『アースラボ』では、タブレットを使用して再生可能エネルギーについて学習することが出来る映像コンテンツを導入しています。

今回のリニューアルにより、『あすぴあ』へ、多くのお客様に来場いただき、多くの学びを得ていただくとともに、他の町内施設等と『あすぴあ』が連携し、町の地域振興に繋がることを期待しています。〔文責・佐久本〕

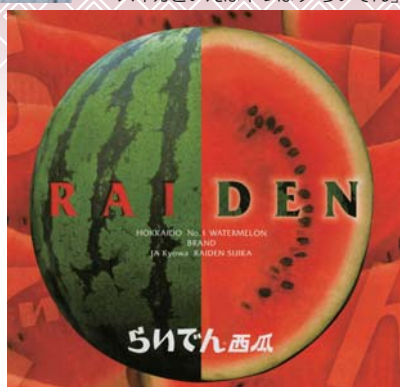


佐賀県玄海町
地図⑩



畑で顔をのぞかせるスイカ

スイカといえばやっぱり「らいでん」



北海道が誇る高級スイカ

らいでんスイカ

きょうわちよう
北海道共和町
地図 E

積丹半島の西の付け根に位置する共和町の特産品のひとつである「らいでんスイカ」は、北海道一の出荷量を誇る、甘くて高品質のスイカです。スイカ栽培の歴史は古く、50年以上前から栽培が行われ、その味が好評だったため本格的な栽培が始まりました。清涼感に溢れるシャープな甘みとシャリッとした食感が特徴、その果汁が喉を潤します。出荷時期は毎年6月初旬から10月まで。夏の旬の味として親しまれています。

DATA

【お問合せ】きょうわ農業協同組合 ☎0135-74-3011
【URL】<http://www.ja-kyouwa.jp>

電源地域情報ひろば

特産品 開発情報



ごま・くるみ・醤油のたれで食す『うーめん三昧』

白石のソウルフード

しろいしうーめん 白石温麺

しろいし
宮城県白石市
地図 F

DATA

【お問合せ】奥州白石温麺協同組合 ☎0224-25-0124
【URL】<http://www.shiroishi-umen.com/top.html>

白石を代表する郷土の味覚が「白石温麺」。その歴史は古く江戸時代とされ、胃病の父を心配した孝行息子が、旅の僧から油を使わない麺を伝授されたのが発祥とされています。この話を聞いた殿様が、心温まる麺ということで『温麺（うーめん）』と名付けました。

温麺は市内の多数の飲食店で味わうことができ、市では毎月7日を「白石温麺の日」と定めています。奥州白石温麺協同組合直営店『やまぶき亭』では、今夏新メニューの鴨せいろなど、温冷多彩なメニューをご用意してお待ちしております。



奥州白石温麺協同組合直営店『やまぶき亭』の外観

開発された 新・長井名物
『馬肉ラーメン肉まん』

黄色いキッチンカーでの
移動販売行っています



新・長井名物 片手で食べられる

馬肉ラーメン肉まん

ながい
山形県長井市
地図 G

山形県置賜地方の長井市では、昔から馬肉料理を食べる独特の文化があります。3年前、地域で名物を作ろうと異業種のメンバーが集まり、試行錯誤して生まれたのが『馬肉ラーメン肉まん』。片手で食べられる馬肉ラーメンを再現するため、ラーメンと同じく、馬肉チャーシュー・麺・メンマ・ネギが入って、さらに頭に乘っているナルトがポイント。一口食べれば納得の味です。その後、異業種のメンバーが株式会社を設立し、商品の販売や開発を担い、地域の味を守っています。

DATA

【お問合せ】株式会社アイデアのおもちゃ箱 ☎0238-88-1320
【URL】<http://www.idea-toybox.net/index.html>

漬物にしても栄養豊富

野沢菜

のざわおんせんむら
長野県野沢温泉村
地図 H

野沢温泉村は全国的に有名な野沢菜の発祥地です。野沢菜は他の野菜と違い、漬物にしてもその栄養素がほとんど減少しないのが特徴で、ガン予防に効果があるというビタミンAは漬物にすることで増加します。

この特産品の野沢菜を使って、全国の漬物好きの人達との交流を図り、村の魅力作りにつなげようと設立されたのが『のざわな無四季會社』。株主ならぬ『無主』になると、野沢温泉で漬け込んだ野沢菜が宅配されるほか、洒落とユーモアを活かした特色あるイベントへの参加など、様々な特典を受けられます。



『無主』は野沢菜収穫を体験できます

特産の野沢菜漬け



地元お母さんたちの手作り

美濃白川産大豆100%のとうふ

岐阜県白川町
地図①

岐阜県白川町では集落営農組織によって、耕作放棄地の管理や水田の転作が進められてきました。転作作物の主体は大豆です。佐見地区では女性起業グループ「佐見とうふ豆の力」が、大豆と佐見川のきれいな水を使い、豆腐、油揚げなどの大豆製品を手づくりしています。豆腐は大豆の味が濃く、すぐに完売してしまうほどの人気です。

今年4月には農家カフェ『Soia』がオープンし、大豆製品や地元産野菜を使った朝食メニューやスイーツも楽しむことができます。



美濃白川産大豆100%のとうふ・大豆製品

DATA

【お問合せ】佐見とうふ 豆の力
☎0574-76-2688

ニジマスの新ブランド

あかふじ
紅富士

静岡県富士宮市
地図①

ニジマスは北米原産の川魚で「サーモントラウト」とも呼ばれており、明治初期に日本に伝来しました。富士宮市では昭和8年に、県水産技術研究所富士養鱒場が開設され、富士養鱒協ではニジマスの新ブランドとして『紅富士』を開発しています。緻密な飼料管理により脂分は控えめで、身の色は鮮やかな紅色。市内でニジマス料理を楽しめる店舗や宿泊施設は、50ヶ所近くに上ります。さっぱりとした味わいで、刺身にするとコリコリとした食感が楽しめますので、ぜひ味わってみてください。

DATA

【お問合せ】富士養鱒協同組合 ☎0544-26-4167
【URL】<http://fujiyoson.com>



鮮やかな紅色の刺身 ニジマスの新ブランド『紅富士』

もちもちで栄養豊富

もち麦

兵庫県福崎町
地図①

福崎町の特産品は、大麦の一種である「もち麦」を素材とする数々の商品です。「もち麦」は穀類の中でも高タンパク、高ミネラルで、βグルカンという食物繊維の含有率が高いため、ダイエット食品としても注目されています。もちむぎ麺、もちむぎ素麺『福の糸』、もちむぎカステラ、お茶などの加工品があり、町内の『もちむぎのやかた』では、こうした商品が販売されています。平成6年のふるさと全国食品フェアで、この「もち麦」を使用した麺が「食品流通局長賞」を受賞しており、「ひょうご推奨ブランド」にも認証されています。



もち麦



もち麦を使ったざるうどん

DATA

【お問合せ】株式会社もちむぎ食品センター
☎0790-22-0569
【URL】<http://www.mochimugi.jp/>

特産の「幻の魚」をPR

カマガリバーガー

大分県臼杵市
地図①

水産業の盛んな臼杵市で「幻の魚」と言われている「カマガリ」。豊後水道の水深200~300mの深海で獲れ、どんな料理法でも合うクセのない味わいから、知る人ぞ知る名魚といわれています。「ご飯をカマ(釜)ごと借りて食べなくてはならないほど美味しい魚」ということから、カマガリと名付けられたそうです。その「カマガリ」を使用して、臼杵市や県、県漁協臼杵支店、観光関係者らが共同で「カマガリバーガー」を開発しています。



臼杵市の特産「カマガリ」



カマガリバーガー

DATA

【お問合せ】ミルキースター
☎0972-63-1133





関所で手形改め体験をする参加者



白い花を咲かせたソバ畑の中を歩く

町の一大イベント

第31回わらじで歩こう七ヶ宿

宮城県七ヶ宿町
地図 N

藩政時代に奥羽13大名の参勤交代や「出羽三山詣」などで、旅人や商人が往来した山中七ヶ宿街道約11kmの道のりを、わらじを履き旅人気分でのんびり歩くイベントです。参加者が履くわらじは、すべて地元の方による手作り。道中には当時の賑わいが再現された関所や茶屋があり、岩魚の塩焼きや麦茶、果物などのおもてなしもあります。前日の8月26日(土)には旅の安全を祈願した「七ヶ宿火まつり」が開催され、東北最大級の採燈大護摩供や山伏行列、打ち上げ上火花が催されます。

DATA

【開催日】8月27日(日)【受付場所】七ヶ宿町役場
【開催場所】七ヶ宿スキー場～七ヶ宿町役場
【参加申込・お問合せ】七ヶ宿町観光協会
(七ヶ宿町役場ふるさと振興課内) ☎0224-37-2177
※ご参加には事前申込が必要です
【URL】<http://www.town.shichikashuku.miyagi.jp/sightseeing/>

こだわりの作品が勢ぞろい

創造の森・上野村フェスティバル

群馬県上野村
地図 O

森林に囲まれ、昔から林業や木工が盛んな上野村。県外からも木作家が移住しアトリエを構えています。上野村フェスティバルでは、上野村在中の木作家だけでなく、全国から多くの作家が参加し、生活用品から芸術性の高い作品までを一堂に展示・即売します。

森の緑のなか、木工芸家たちとのコミュニケーションを楽しむこともできるのも魅力のひとつ。

作品を手作りできるワークショップや、上野村特産のグルメが並ぶテント村も人気です。



緑のなかでの木工作品の展示・即売



リース作り体験コーナー

DATA

【開催日】9月16日(土)・17日(日)
【会場】天空回廊・まほーばの森
【お問合せ】上野村商工会 ☎0274-59-2254
【URL】<http://www.uenomura.ne.jp/ueno2254/>

みる 演じる ささえる

いいだ人形劇フェスタ2017

長野県飯田市
地図 P

毎年8月上旬に飯田市で開催されている日本最大の人形劇の祭典です。国内外で活躍するプロの劇団から、アマチュア・学生劇団まで、そして現代人形劇から伝統的な「人形芝居」まで。様々なスタイルの人形劇が一堂に会し、市内が人形劇一色になります。

多くの人形劇が、市街地だけでなく飯田市全域の公民館や集会所などで行われ、市民と人形劇団が交流しながら、一緒に祭典を運営しています。いいだ人形劇フェスタは、市民と人形劇団がともにつくる人形劇の祭典です。

人形と劇団員がまちを練り歩く「わいわいパレード」

DATA

【開催日】8月1日(火)～6日(日)
【会場】飯田市内各地の上演会場
【お問合せ】いいだ人形劇フェスタ実行委員会事務局
☎0265-23-3552
【URL】<http://www.iida-puppet.com/index.html>



電源地域情報ひろば

イベント情報



原っぱのとアートの融合

廃校を利用した
アート展示



田舎の風景とアートの融合

かみこあにプロジェクト

秋田県上小阿仁村
地図 M

廃校や棚田を活用したアートイベント「かみこあにプロジェクト」が、今年も上小阿仁村で催されます。アートを通じて多様な世代の人たちと交流しながら、地域活性化を目指す取り組みです。

イベントには県内外の作家や秋田公立美術大学の学生ら23人が彫刻、絵画、写真、オブジェを使った現代アートなどを出品します。田舎の風景とアートの融合はまさにここでしか出会えないもので、その魅力に多くの人が足を運んでいます。

DATA

【開催日】8月5日(土)～9月17日(日)
【会場】八木沢会場(集落内、旧八木沢分校)、
沖田面会場(旧沖田面小学校)
【お問合せ】上小阿仁村総務課 ☎0186-77-2221
【URL】<http://www.vill.kamikoani.akita.jp>

大型人形劇のステージは大迫力!





グランプリ作品と受賞者たち



チーム一丸となって製作に打ち込む



地域住民が作り上げた巨大燈籠



孔雀が翼を広げた姿の打ち上げ花火『彩雲孔雀』

巨大燈籠と花火の競演

2017きほく燈籠祭

三重県紀北町
地図 R

東紀州の夏の夜を、巨大燈籠と花火の競演で彩る『きほく燈籠祭』が今年も開催されます。

この祭りのために、地域住民が夜な夜な集い巨大な燈籠を作り上げます。海上に巨大燈籠が浮かぶ様子は、「海のねぶた」と称されるほどの勇壮さ。燈籠と共に夜空を彩る打ち上げ花火も、祭りの見どころのひとつです。特に、孔雀が大きく翼を広げた姿の打ち上げ花火『彩雲孔雀』は、ここでしか見られない花火です。

来場者も製作者も、ともに感動を分かち合うこの祭りに、ぜひお越しください。

DATA

【開催日】7月22日(土) ※雨天順延
【会場】紀北町・長島港
【お問合せ】紀北町燈籠祭実行委員会
☎080-8705-2612
【URL】<http://touroumaturi.com/>

炎天下の芸術コンテスト

みずなみ陶土フェスタ

岐阜県瑞浪市
地図 Q

日本を代表する「陶器のまち」岐阜県瑞浪市。「クレイオブジェ・コンテスト」は、約1tの粘土を使い、高さ1m以上2m未満の巨大オブジェを作り上げるイベントです。真夏の炎天下、昼夜を問わず参加者はチーム一丸となって粘土と格闘します。制限時間の48時間いっぱいをかけて、粘土が芸術作品へと作り変えられていく様子は、観客の感動を呼び起こします。この夏は“陶器のまち”岐阜県瑞浪市で最高の思い出を作ってみては？

DATA

【開催日】8月4日(金)～6日(日)
【会場】瑞浪市寺河戸町 市道公園線
【お問合せ】みずなみ陶土フェスタ事務局
☎0877-24-8816
【URL】<http://www.facebook.com/MizunamiToudofesta>

館内を彩る「かまぼこ板の絵」
(写真提供:ギャラリーしろかわ)



西予市立美術館
ギャラリーしろかわ
(写真提供:ギャラリーしろかわ)



小さな板に描かれたアート

第23回全国「かまぼこ板の絵」展覧会

愛媛県西予市
地図 S

食べたあとは捨ててしまう、かまぼこ板。そんなかまぼこ板をキャンバスにした「かまぼこ板の絵」を全国から募集し展示する展覧会が、今年も7月から「西予市立美術館 ギャラリーしろかわ」にて開催されます。

今年の展示テーマは「感動ひろがる、ここから広がる。」です。「ギャラリーしろかわ」が窓口になり、全国から寄せられた小さな「かまぼこ板の絵」に込められた感動を皆様へ届けます。

全国から寄せられた8,978点の作品を全て展示しますので、ぜひお越しください。

DATA

【開催日】7月15日(土)～12月3日(日)
【毎週火曜日休館。火曜祝日の場合はその翌平日休館】
【会場】西予市立美術館 ギャラリーしろかわ ☎0894-82-1001
【お問合せ】西予市立美術館 ギャラリーしろかわ ☎0894-82-1001
【URL】<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/s-gallery/>

大自然の中でスローな夜を

やまんなか音楽会 in はなせ

鹿児島県錦江町
地図 T



色とりどりの竹燈籠

DATA

【開催日】8月18日(金)・19日(土)
【会場】錦江町田代地区
【お問合せ】錦江やまんなか協議会
☎0994-25-2511(錦江町観光交流課)
【URL】<https://ja-jp.facebook.com/yamannaka.music.fes/>

「やまんなか音楽会」は、地域資源である竹を活用しようと始まったイベントです。花瀬川の川床を、3,000本の竹灯籠と500本のペットボトルキャンドルでライトアップし、幻想的な光の空間の中、川床の舞台の上で、癒しの音楽が奏でられます。そして、締めくくりに打ち上げ花火と豪快なナイアガラ仕掛け花火が舞う、光と水と音がふんだんに盛り込まれた壮大なイベントです。

幻想的な川床のライドアップ



掲載のご希望がございましたら、電気のふるさと編集室(☎03-6372-7305 E-mail: furusato@dengen.or.jp)までお知らせください。掲載費用が発生することはありません。(編集の都合上、掲載できない場合がございますことを予めご理解願います)



一般財団法人電源地域振興センターの 平成29年度主な事業

当センターの平成29年度における主要な事業をお知らせします。詳しくは下記各担当までお問い合わせください。

■人材育成事業（研修事業）

電源地域の担い手づくりをお手伝いします。電源地域の長期的・自立的な振興を担う人材の育成を目的に、さまざまな研修を行います。電源地域のニーズの高いテーマ設定、経験豊富で専門的知見・ノウハウを有した講師陣、先進事例紹介・グループワークなど具体的かつ実践的なカリキュラムとなっています。

【お問い合わせ】
地域振興部 振興業務課
（研修事業担当）
☎03-6372-7305
✉kensyu@dengen.or.jp



平成28年度研修1「協働」

■産品支援事業

電源地域の特産品の開発・改良および販路拡大を支援します。当財団の永年にわたる流通業界とのネットワークを活かし、地域の特産品事業者と流通関係者との面談やテストマーケティングの機会をご提供します。

【お問い合わせ】
地域振興部 振興業務課
（産品支援事業担当）
☎03-6372-7305
✉hanbai@dengen.or.jp



平成28年度「定期開催型 産品相談・商談会」

■企業誘致支援

電源地域への立地優遇措置のPRや工業団地情報の提供を行っています。さらに企業の地方立地意向調査や企業導入実行計画調査などを実施します。

【お問い合わせ】
地域振興部 振興調査課
（企業誘致支援事業担当）
☎03-6372-7306
✉yuuchi@dengen.or.jp



平成27年度企業誘致支援事業の「国際物流展」における説明

■相談事業

電源地域からのご相談にお応えします。地域活性化に取り組むうえでの問題点、悩みについて、お気軽にご相談ください。皆様からのご要望にお応えするセンターの窓口です。

【お問い合わせ】
地域振興部 振興業務課
（相談事業担当）
☎03-6372-7305
✉shinkou@dengen.or.jp

■専門家派遣事業

電源地域が抱える様々な課題を解決するために、地域振興に関する各分野の専門家による現地指導を行います。

平成28年度「専門家派遣事業」の講演会風景



【お問い合わせ】
地域振興部 振興調査課
（専門家派遣事業担当）
☎03-6372-7306
✉senmon@dengen.or.jp

■調査事業

電源地域が抱える課題を調査・検討します。以下のような地域の活性化につながる各種の調査・提言などを行い、電源地域の長期的・自立的発展を支援します。

●計画策定調査

発電所立地等による経済的・財政的メリットを生かし、総合的・広域的な視点から地域振興計画の策定支援を行います。

●特産品ブランド形成調査

電源地域の物産・自然・文化資源などを最大限に活用した特産品開発や観光振興などによる地域振興に向け、現状分析を踏まえ、先行事例調査・開発企画・流通チャンネルの検討・必要な組織体制づくりなどについて調査するとともに、事業化に向けた具体的な提言を行います。

●その他地域振興に関する調査
電源地域の地域振興に寄与するための各種調査を行います。

【お問い合わせ】
地域振興部 振興調査課
☎03-6372-7306
✉chousa@dengen.or.jp



平成28年度「専門家派遣事業」

■平成29年度 研修一覧

No.	テ ー マ	時 期	日数	定員	研修場所	参加費
1	自治体職員が求められる能力を学ぶ ～効果的な施策・事業づくり～	平成29年11月30日(木) ～12月1日(金)	2日	20名	(一財)電源地域 振興センター	20,000円
	自治体職員は、地域の課題把握や効果的な施策の実施が求められています。データ分析やワークショップなどを用いて、「真の課題の発見」、「適切な成果目標の設定」、「周りの巻き込み方」などを体感的に学びます。					
2	協働の考え方・つくり方 ～新しい地域づくり・新役所改革～	平成29年7月27日(木) ～28日(金)	2日	20名	(一財)電源地域 振興センター	20,000円
	協働を進める上で必要な協働の概念と基礎から学びます。また、協働の事例として若者のまちづくりへの参画について考えます。					
3	企業誘致による地域活性化策を学ぶ	平成29年10月26日(木) ～27日(金)	2日	50名	HSB鐵砲洲	20,000円
	企業誘致の推進に向けた産業動向や関連政策、実務啓発、誘致事例について学びます。					
4	原子力発電所の廃炉を学ぶ	平成29年10月19日(木) ～20日(金)	2日	10名	(一財)電源地域 振興センター	20,000円
	廃止措置の概要と現在の状況、安全性や今後の展望などについて学びます。 ※東海発電所見学あり。研修場所-見学施設間の交通費は別途ご負担いただきます。					
5	地域資源を活用した地域ブランド作りと販売戦略を学ぶ	平成29年11月〔予定〕	2日	20名	(一財)電源地域 振興センター	20,000円
	地域資源の見つけ方や地域ブランドへの育て方、そして、販売するまでを学びます。					
6	成長する農業と6次産業化のヒントを学ぶ	平成30年1月〔予定〕	2日	20名	(一財)電源地域 振興センター	20,000円
	農業を成長産業とするヒントや6次産業化を成功させるポイントなどを学びます。					
7	地域住民が主体となる地域運営と小さな拠点づくりを学ぶ	平成30年2月〔予定〕	2日	20名	(一財)電源地域 振興センター	20,000円
	集落地域の人や資源・活動をつなぎ、暮らしの安心と未来の希望を育む小さな拠点づくりを学びます。					

■産品支援事業

産品相談・商談会	定期開催型	流通関係者をアドバイザーとして招聘し、地域特産品の開発・改良および販路拡大についての具体的なアドバイスを受けることができる、年1回開催する産品相談・商談会です。		
		開催時期	平成29年7月21日(金)	
		実施場所	東京(当センター会議室)	
		実施形態	事前スケジュールに基づいた1対1の個別面談(1面談30分程度)	
		ポイント	1回のご参加で多くのバイヤーと個別に面談することができ、効率的に商品をアピールすることができます。また、継続的なご参加により、常設・催事出店等の効果が現れています。	
	地元開催型	皆様の地元で実施できるオーダーメイド型の産品相談・商談会です。ご希望のアドバイザーを派遣して面談を行います。また、面談の他にもアドバイザーによる講演会や製造のこだわりをアドバイザーに体感してもらうための製造現場視察などを組み合わせることも可能です。		
		実施時期	応募市町村の希望時期	
		実施場所	応募市町村の希望会場	
	随時型	ポイント	地元で実施することで、参加者の時間的・費用的負担が軽減されます。また、現地訪問によりバイヤーの地域への認知度が向上し、実施後もバイヤーと相談・商談しやすい関係の継続が期待できます。	
		事業者の方でご都合に合わせ、バイヤー等との面談を個別にセッティングいたします。		
随時面談		首都圏への上京に機会に合わせ、百貨店等のバイヤーとの個別面談の機会を設けます。		
代行面談		事業者に代わって当センター職員が百貨店等のバイヤーとの面談を行い、そのアドバイスをフィードバックします。		
産品実践販売	一般型	ポイント	時間的・費用的負担の軽減とともに、好きな時に商品アドバイスを受けることができます。	
		普段はなかなかできない百貨店や総合スーパーの催事場への出店機会を提供いたします。		
		実施場所	大都市圏の百貨店や総合スーパー等の食品催事場	
		実施形態	食品催事場での対面販売	
	短期型	ポイント	商品の評価を消費者から直に聞き、開発・改良のヒントを得ることができます。また、商品に合った陳列や接客の仕方等の販売方法について、実施店の催事担当者からアドバイスを受けることができます。	
		重要電源地域限定で、商工会など長期間の参加が難しい団体に最適です。		
		実施場所	首都圏の商店街等との協議の上決定します。	
		実施形態	2日間程度の日数から可能です。	
短期型	ポイント	短期間でもテストマーケティングができ、開発・改良のヒントを得ることができます。		



まつした けいち
松下啓一さん

KEY PERSON



協働の考え方とつくり方

各方面で活躍する「まちづくりのKEY PERSON」に地域活性化の視点をお聞きしています。今回は、横浜市職員として長年ご活躍された後、大学教員として自治体における様々な協働の取り組み方を研究してこられた、相模女子大学・松下啓一教授にお聞きしました。松下教授には、平成29年7月27～28日開催予定の当センターの研修「協働の考え方・つくり方 ～新しい地域づくり・新役所改革～」の講師をお願いしています。

一緒にやる協働、やらない協働

国語としての「協働」をみると、「協力して働く＝行政と市民が一緒に働く」という意味になります。そこから、多くの自治体職員は、自分たちの仕事は、市民と一緒にやらないから、「協働」ではないということになってしまいます。

しかし、自治体職員がやるのは、「政策としての協働」です。住みよいまちをつくるために、行政だけでなく、市民もまちの担い手として、「ともに」その力を発揮していこうという理念です。

そのために、一緒に働くこともありますが、「一緒にやらない」場合もあります。

市役所職員であった1995年当時、阪神淡路大震災があり、若手職員を連れて神戸に視察に行きました。神戸市役所の庁舎は倒壊し、行政が機能不全に陥っていました。一方で、廃墟と化した神戸の街の中で、言葉は悪いのですが、実に生き生きと救援活動を行っている市民の皆さんを目の当たりにしました。それは大きな衝撃でした。それまでは、まちは行政がつくっているものと自負していましたが、実は、自治会、町内会、NPOといった市民もまちをつくっていたのです。

行政と市民は一緒に働いてはいませんが、市民が公共の主体としての役割を担って、まちづくりをしていることにも公共の価値があることがわかります。そして、そのような市民の活動を行政が励まし、応援することも協働なのです。

「あたたかな目線」も協働

一緒にやる協働は、実は限定的です。一緒にやるということで、役所

の論理に縛られるからです。役所は、公益性、公平性・公正性、効率性、有効性、優先性、行政計画との整合性などさまざまな条件を満たさないと行動できません。公益性が乏しいのに補助を行えば、住民監査請求、住民訴訟の対象になります。

こんなことがありました。90年代のはじめ、DV(ドメスティック・バイオレンス)のシェルター活動をしている女性団体から、市で財政支援してほしいと頼まれたのです。悩みましたが結局、断りました。なぜならば、まだその当時、DVの問題は、家庭内のこと、個人的なことで、公益性が十分でないと考えたからです。

しかし、「いつでも相談に来てほしい」、「困ったことがあったらいつでも寄ってほしい」と応援しました。このような「あたたかな目線」、「逃げない姿勢」、これも協働です。その後、あちこちでDVに対する取り組みが行われ、今日では公益性が高い活動になりました。

市民が活動できる場所や機会の提供、有用な情報や知識の提供なども、一緒ににはやらないけれど、彼らの活動を励まし、後押しする協働です。

協働をこのように考えると、市民と直接接点の機会がある課だけでなく、全ての課に協働がでできます。例えば、人事課は市民の力を引き出せるような職員を採用し、研修する

ことも協働です。協働はみんなのことなのです。

協働を担う人材の 見つけ方・育て方

人の見つけ方に、これというものはありません。機会さえあれば、活動を担ってくれるリーダーは自然に生まれてきます。ただ、行政もそういう視点でアンテナを張り、一年に一人でも良いので、まちづくりを担ってくれそうな人を地域の中から見つけておくことが大事です。

今後、最も力を発揮してほしいのが若者です。人口減少・少子高齢化が進んでゆくなかで、次世代を担う若者が、まちづくりに参加しないのは、不自然です。

よく若者はやる気がないといわれますが、それは私の体験と大きく違います。彼らはやる気がないのでなく、活躍の場を与えられていないだけです。彼らをまちづくりの担い手として位置付け、その役割を担ってもらう仕組みを作れば、大いに活躍します。

例えば、愛知県の^{しんしろ}新城市では、全国初の若者条例、若者議会条例を制定し、若者に1,000万円の予算提案権を付与する制度を始めました。そのような責任を与えられた若者は、初めは躊躇しますが、公共的な責任を果たす経験を積みかさねていくことで、地域の担い手として成長していきます。(談)

略歴

1951年、神奈川県横浜市生まれ。中央大学法学部卒業。1977年から26年間の横浜市職員時代には、総務・環境・都市計画・経済・水道などの各局で調査・企画を担当。ことに市民と協働で行ったリサイクル条例策定の経験が、公共主体としてのNPOへの関心につながる。横浜市役所を退職後は、大阪国際大学 法政経済学部 教授を経て、現在、相模女子大学 人間社会学部 社会マネジメント学科 教授。パートナーシップ市民フォーラムさがみはら顧問。専門は現代自治体論(まちづくり、NPO・協働論、政策法務)。